

第5回草津市総合計画審議会 会議録

■日時：

令和6年10月2日（水） 14時00分～15時00分

◆場所：

草津市役所2階 特大会議室

■出席委員：

我孫子委員、植村委員、北村委員、肥塚委員、佐野委員、清水委員、下笠委員、塚口委員、中谷委員、中西委員、堀井委員、三浦委員、吉川委員

■欠席委員：

窪田委員、西原委員、村本委員、吉田委員

■事務局：

金森総合政策部長、山本総合政策部総括副部長、門田企画調整課長、永田企画調整課課長補佐、三谷係長、山下主査、山田主査、川端主査、川口主査

傍聴者：

1名

1. 開会

●開会にあたり、事務局より挨拶

●事務局より確認事項

本日の審議会は、委員17名のうち13名が出席。委員の半数以上の出席により草津市総合計画審議会設置条例施行規則第5条第2号に基づき本審議会が成立していることを報告する。

2. 審議

(1) 第6次草津市総合計画第2期基本計画（案）について

●事務局

<資料1～8について説明>

◎肥塚会長

本会議や市民会議等を踏まえ修正いただき、修正箇所や全体の構成を説明いただいた。本日は確認いただくとともに、さらに修正すべき点等がないか御意見をいただきたい。

○委員

私が専門とする分野から見ると上手くまとめていただいている。少なくとも交通や都市計画等の面からは十分なものであると思われる。

◎肥塚会長

特に御意見もないようであるので、終了としたい。第6次草津市総合計画第2期基本計画案については、この後取りまとめ、中谷副会長と私の方から10月22日に市長に答申する予定である。本日の審議では御意見はなかったが、万が一計画案に修正の必要が生じた場合は、会長一任とさせていただきたくよろしくお願いする。これで第6次草津市総合計画第2期基本計画（案）について審議了とする。

3. その他

地域幸福度（Well-Being）指標 個別評価報告書について

●事務局

<参考資料1、資料2の188ページ以降について説明>

◎肥塚会長

ただいまの説明について、御質問等があればお願いしたい。

○委員

今回、草津市民1,000名程度のデータから偏差値化されている。この偏差値は全国・全市町村のデータがあつて、それと比較できるものなのか。全国の市町村で同様の調査が実施されているということか。

●事務局

全国で調査を行っているが、今回説明させていただいた調査は個別調査として本市が独自に行った調査である。全国で同じ調査を実施しているが、全国一律の調査では、自治体ごとのサンプル数が少なくなることから、更に詳細を把握するため、全国一律の調査と同じ質問項目の調査を、本市では3,000名を対象に独自に実施した。全国的な調査と調査項目が同じであるため、全国の自治体と比較可能である。

○委員

偏差値があるため全国自治体データがあるものと理解した。滋賀県全体の位置も知りたかった。滋賀県の中の草津市の位置や、全国の中の滋賀県の位置は見られるのか。

●事務局

全国自治体のデータはデジタル庁のホームページで閲覧が可能となっているが、調査自体は各自治体の設問項目と県の設問項目が異なるため、県としての結果、県内各市町の結果として見ていただくことになるので留意が必要である。

○委員

全国と比べてどうかということがわかるので、そのようなデータも参考として示していただけるとありがたい。

●事務局

補足をさせていただくと、デジタル庁がスマートシティインスティテュートに委託して全国調査を行っているのだが、全国調査の方が、サンプル数が少なくなっている。滋賀県

全体で回答者は1,050程度であり、草津市では118と母数が少なかったため、サンプル数を増やすため、設問項目はそのままに独自に個別調査を実施したものである。ウェルビーイングの手法を活用しようとしている自治体が増えているため、各自治体が個別調査を実施すれば更に比較しやすくなると考えている。

○委員

第2期基本計画の計画期間は令和10年度までであるが、毎年この個別調査を行うのか。

●事務局

毎年この調査を実施する予定であり、毎年の施策評価内で結果を活用していきたい。

○委員

設問はこの4年間同じ内容で、見直し等は考えないのか。

●事務局

地域幸福度（Well-Being）指標は、設問項目を含め研究段階の内容であり、過去になかった設問も研究が進む中で出てくる可能性がある。今年度については、この設問項目とし、来年度以降は見直しも含めて、施策の進捗を測ってまいりたい。

○委員

因子と主観指標、施策とそれぞれあるが、施策が異なるのに指標の表現が同じものがある。例えば、農業で言えば204ページの「農業の振興」に「農地の保全と生産基盤の強化」、「人材の確保・育成と農業経営の強化」、「『農』を通じたつながりの拡大」とあるが、指標はすべて「暮らしている地域では、自然を身近に感じることができる」で、農業を自然にひっくるめて書いているような形で、どれも同じ指標である。毎年、精度を高めていくつもりであるならば、一つ一つの項目について、意識の調査という側面を考慮するならば、変えていく必要があるのではないか。農業だけでなく他の分野でも同じ指標を使っているものがたくさん見られる。これを検討するとより良いものとなると思う。

●事務局

地域幸福度（Well-Being）指標では都市間で比較できるように全国一律のものが用意されており、今回は、それぞれの施策がどの指標を高めることに貢献ができるかの観点で、指標に施策を紐づけている。それぞれの施策の効果を測るというよりも、主観指標を高めるためにどの施策が有効かというところで結び付けているため、同じ指標が複数の施策に紐づいている形となっている。いったん都市間比較という観点でこの状態からスタートさせてもらい、今後、ウェルビーイングの取組を進める中で、独自の指標を設定している自治体もあるので、そういったところも目指していけるようであれば参考にしつつ、指標を変えていくことも考えていきたい。まずは、ウェルビーイングの取組のスタートということでこういった形とさせていただいている。

◎肥塚会長

地域幸福度（Well-Being）指標は、これ自身を計画の目標値にするというわけではなく、まずは説明にあったような、参考指標という位置付けである。地域幸福度（Well-Being）

指標を高めていくことは重要であるので、いずれこの指標が計画の目標値になるときが来るかもしれない。今後研究を深める必要があるということで、現時点では参考指標という位置付けでこの指標を採用し、今後研究状況を踏まえ、指標の変更を含めて検討することである。そういう理解のもと、今後、より活用していくということを確認した。議事については以上としたい。

4. 閉会

●橋川市長より挨拶

草津市総合計画審議会の閉会にあたり一言御礼を申し上げる。

令和6年1月の審議会以来、全5回の会議で半年以上にわたりそれぞれの立場から熱心に議論いただき感謝申し上げます。おかげさまで本日、第6次草津市総合計画第2期基本計画案をまとめていただいた。今後、答申をいただき、それをパブリックコメントにかけ、また、市長としてタウンミーティングを行うことで幅広く市民の皆様の意見をいただいたうえで案を確定させ、2月の定例市議会に議案として提案させていただく予定である。

御審議の過程で頂戴した様々な御意見を参考にさせていただきながら、今後の市政運営に取り組み、草津市の未来を確かなものにしてまいりたいと考えている。

引き続き草津市政への御支援、御協力をお願い申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。本日は感謝申し上げます。